

令和元年度 第2回西区教育ミーティング 会議録概要

開催日時 令和2年1月28日(火)午後1時15分から午後2時50分まで
会 場 西区役所健康センター棟3階 大会議室
出席者 西区自治協議会委員18名
教育委員:佐藤教育委員, 渡邊教育委員
事務局:教育総務課長補佐, 同主査, 地域教育推進課長補佐, 学校支援課副参事, 坂井輪図書館長, 坂井輪地区公民館長, 赤塚中学校長, 東青山小学校長, 西区教育支援センター所長 他2名
西区役所:区長, 副区長, 地域課長, 同課長補佐
傍聴者:3名

議 事 1 開会
2 教育委員あいさつ(佐藤教育委員, 渡邊教育委員)

司 会 教育委員からごあいさつをお願いいたします。

佐 藤 皆様こんにちは。今日はお忙しいなか、自治協の前の時間、貴重なお時間をいただきまして、第2回の西区教育ミーティングを開催させていただきます。

第1回を同じこの場所で開催させていただきましたけれども、前回の教育ミーティングのなかで、保護者世代の方々が教育に関する取組や地域の行事等への参加がなかなか少ないことが課題ですよというようなお話があったと記憶をしております。

それは、実は西区だけではなくて、新潟市全域において同じような課題あるわけですが、本日第2回のこの教育ミーティングにおきましては、まさにその題材について皆さんから意見交換をしていただきたいということでございます。

保護者世代、たぶん30代から50代までの、私も今52歳でもうすぐ53歳になり、上の子どもが高2、下の子どもが中2で、まさにその世代でありますけれども、我々の世代がやはり仕事を持っているなかで、地域の活動であるとか、保護者としてのPTAのような教育に関する活動とかに、なかなか出られないという現実があります。

そこをどういうふうに改善していったらいいかというところの話になると思うのですが、実はこれは教育に関することだけではありません。実は皆様の自治、コミ協であるとか町内会の役員でも起きていて、会長さんがご高齢になってなかなか次世代のリーダーが見つからなくて困っていますよという話があると思います。これはどこへ行っても同じ話で、今日は教育という切り口でお話をしてもらいますが、実は皆様の地域の全体としての課題

にもつながる内容だと私は思っております。ぜひ皆様の、地域の未来のためにという視点も入れながら、活発な意見交換をしていただきたいと思いますというところがございます。

それでは1時間半、充実した時間になりますようお願いさせていただきます。私からの挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

渡 邊
教育委員

皆様こんにちは。渡邊です。

前回の西区教育ミーティングのときは、本当に各自治会の方、民生委員の方、コーディネーターの方など、いろんな方たちの意見を伺わせていただきました。

今回はまたその話から、三者連携をどのようにしていくかということをより一層深めるいい機会になればと考えております。ぜひ皆様のご意見をまた伺わせていただいて、こちらも勉強させていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

議 事

3 事業説明

- (1) 全国学力・学習状況調査の結果(学校支援課)
- (2) 保護者、地域、学校の連携のあり方(西区教育支援センター)
- (3) 学校現場での三者連携の具体的な取組
(赤塚中学校, 東青山小学校)

4 意見交換(司会 西区教育支援センター所長)

司 会

では、これより3班に分かれて、グループディスカッションをしていきます。意見交換のテーマや進め方につきましては、資料6をご覧ください。各班にファシリテーターとして事務局職員が入りますので、活発な意見交換をよろしくお願いいたします。

～各班で意見交換を実施～

司 会

皆様、活発な意見交換ありがとうございました。白熱した議論をまだまだ続けたいところではありますが、残念ながら時間が来ましたので、そろそろ発表の時間に移らせていただきたいと思います。

A班発表

A班の発表をさせていただきます。

最初に三者連携で、保護者にどうやって関わって欲しいのか、皆さんの意見を聞きました。学校行事には保護者の皆さんは結構参加していますが、やはり地域活動へはなかなか参加していただけていないといった現状がありました。そして、地域活動への参加の前の、そうした活動への理解が

保護者世代は少し不足しているかも知れないとの意見もありました。また、地域としては、活動への参加だけでなく、本当は地域活動の運営側にも関わっていただきたいとの思いもありました。けれども、PTAと教育委員会の合同で行うふれあいスクールなどでも、PTAよりもやはり地域の方が頑張っていて、保護者の頑張りがあまり見えないかなという意見も出ました。このような現状がありまして、では保護者に関わってもらうためにはどうすればいいのか、そのために保護者世代を巻き込む配慮や工夫としては何を行うとよいのかについて議論しました。

まず皆さんが一斉に言われたことは「地域活動の開催日時を決める際に保護者世代が参加しやすいよう考慮したり、呼びかけやPRをしたりして、それなりの工夫や配慮は既にもうして、それでもやはり参加が少ない」とのことでした。なので、逆に保護者の皆さんが地域にどんなことを期待して、要望しているのか、直接聞いてみたいとのことでした。どんな活動であったなら親子で参加していただけるのか、どんな方法だったら保護者世代の目に留まるのか、まずそういったところから保護者世代の方々と直接意見交換をして、そのうえで配慮や工夫をしていかないと、年齢の離れた自分たちが考えて、配慮している気になっても、なかなか伝わっていないような気がしますとの声が多数聞かれました。

また、校長先生から本日発表をいただいたなかで、学校の方が三者連携の現状とか、各学校の地域事情や課題とかを見つけていただいて、学校発で三者が顔を合わせられる場をつくり、意見交換ができたらいいなとのことでした。既にそういった場は幾つかあるようですが、地域から保護者に声をかけてもなかなか実現しないところもあるので、学校の力も借りながら、三者で意見交換していきたいとのことでした。ただ、そのときのポイントとしましては、日頃から地域活動を頑張っているPTA会長さんとかPTA役員さんとかではなくて、逆に地域行事にはあまり参加していない保護者の方々を対象として、生の声を聞ければ、そこから逆に配慮や工夫のヒントがもらえるのではないかという話になりました。簡単ですが以上です。

B班発表

B班の小林です。私から説明させていただきます。

まず初めに、三者連携のなかでの保護者の関わりということで、やはり地域のことをあまり知らないのではないかとの意見がありました。そのため、地域への関わりをあまり持てない現状があるので、そうした保護者世代の方々がもっと手軽に地域に関われる方法をつくるのが大事なのではないかとりました。

保護者が関わりやすくするためには、例えば仕事を生かした関わり方など工夫が必要との意見もありました。保護者が興味を持って参加するものは、親子で参加できて、子どもが喜ぶ活動が多いと思います。親子間のコミュニケーションが図られるようなものかという視点で考えて、そういった場

をつくっていくといいのではないかとのことでした。

また、保護者の意識改革を図るためにも、保護者一人ひとりがきちんと言えるような場があればいいとの意見もありました。PTAが役員会の形だけではなく、さらに踏み込んで、会員を巻き込むような場づくりも行っていただければとの要望も含まれています。

次に、三者連携は非常に大事との認識のなかで、保護者との関わり方について意見が出されました。保護者を巻き込む配慮や工夫としては、おやじの会とかゴルフ大会とかに若い世代の保護者からも出してもらおう。また、一人親も気軽に参加できるような配慮をする。そういった活動の機会をつくるのが大切となりました。また、地域活動に参加するメリットを示すことも有効なのではないかとの意見もありました。例えば、食品ロス対策にもなる、余った食材で料理を作って食べる催しなど、親子が参加して楽しいと思うようなものを行えば、もっと集まってくるのかなどのことでした。そして、今インターネットの時代ですので、そういったものを活用したり、逆に保護者の方々の生の意見も聞いたりすることも大切です。さらに時代に合わなくなってきたPTAの仕事があれば整理していくことも必要ではないかなどの意見もありました。

最後に、いろいろな親子参加の場があるといいなどの意見が多くあり、学校行事や教育課程のなかで地域の活動も取り入れることが一番の近道で、いい方法ではないかという話になりました。総じてやはりコミュニケーションが足りていない面がありますので、できるだけ三者がいろんな場で意見を交換し、いい関係になっていくことが一番大事という意見にまとまりました。以上で終わらせていただきます。

C班発表

C班です。よろしくお願いいいたします。

最初の三者連携での保護者の関わり方としては、一人ひとりの保護者にまず積極的に役員になること、困っていたら何でも声に出せるような関係になること、そして、子どもの成長だけを願うのではなくて、保護者も一緒になって成長しませんかということが必要なのだろうとなりました。では、どのようにしたらいいのかということで、幾つか提案がなされました。例えば、保護者同士の学びの場をつくること、SNSなどでネットワークを構築していくこと、あとは地域を皆で盛り上げていくための様々なイベントを催すことです。

将来こういう形になってほしいという願いを共有し、今言ったようなことで三者が共に行動していくことが大事です。特に、今は命が大切な時代ですので、そこをクローズアップさせて、例えば防災の視点で、皆が目的意識を一緒にして行動を共にしていく取組を行っていけばいいのではないのでしょうか。それぞれがバラバラで同じような取組を行うのではなくて、地区が一体となって防災について、それぞれの立場から関わるのはどうだろうかとい

うことです。保護者が地域行事に非常に後ろ向きでいかんとの意見もありました。だから、地域の方が保護者へ訴え、学校からも保護者に訴える術が何かあるんじゃないかということで、2つ目のテーマへ移りました。

具体的にどうしていくかということで、これも幾つか提案がありましたが、大きく2つに分かれるかと思います。1つは子どもをヒーローにしていって、例えば中学生はもう防災その他諸々の分野では活躍できているのだから、子どもを中心とした様々な活動を地域も学校も応援していくという姿勢はどうですかということです。また、地域にはいろんな会議がありますが、そういうものが意外と整理されていなくて、保護者が知らないのではないのでしょうか。例えば、PTA総会の際に、育成協議会というものがある、こういう目的でこういう活動をしています、については皆様も活動に参加してください、お願いしますというコマーシャルの場面が必要なのだらうと思います。

また、地域のいろんな役員会議のところ、PTA会長などを充て職で決めてしまうのではなくて、もう少しPTAから幅広の人選で役員を決めてもらうのはどうだろうとの意見もありました。何はともあれ、知ってもらうこと、分かってもらうことが非常に大切で、地域の行事が非常に楽しいものだと感じてもらう必要があります。地域の環境整備を行うので集合してくださいと書いても、誰も行きません。そこを緑のガーデンづくりをします、参加者にはこんなプレゼントがあるし、こんないいこともあるよ、といった宣伝の仕方一つでも、参加者の数は変わってくるのではないのでしょうか。

今のところでは、まずは皆で、地域にはどのような組織があって、それぞれの組織がどんな活動をやっているのかという情報を共有し、次にいろんなことを実現していくときには、三者で協働して一つ活動していきましょとなればよいと思っています。ある自治協の委員からは、経験上「飲みニケーション」がとても有効で、それを行ったことで結束が強くなり、地域の活動を成功させたという力強い事例を紹介してくださいました。C班からは以上です。ありがとうございました。

司 会 ありがとうございました。A班からC班まで3つの班の発表がありましたが、ここで教育委員の方々から本日の感想を伺いたいと思います。

渡 邊 皆さん、お疲れ様でした。A・B・Cの3つのグループの方たちの、本当に熱いご意見を伺って、共通するところが私も少し見えたように思います。

地域と保護者の関わりがなかなかないよだと伺って、でも、やはり保護者と繋がりたいし、いろんな意見を聞きたいというお話がどのグループからも出ていて、とても嬉しく、温かく感じました。それをどうやって繋げていき、また、連携していくにはどうすればいいのか、改めて今日のお話のなかから、いろんなアイデアも出てきたのではないかなと思っています。

ぜひ今日話し合ったことを、どこかの場でまた話を出していただいて、何

か一つでもやってみようということになっていただけると、これから支援をより進めていくうえでも役に立ちますし、三者連携が本当に上手くまわっているのではないかと考えています。ありがとうございました。

佐藤
教育委員

お疲れ様でした。A・B・C班、おおよそ同じような内容でお話されていたというふうに感じました。本質のところでは一緒だったかなと思うのですが、C班がより分かりやすくまとまっていたので、そのキーワードを少し取り上げさせてもらいながらお話ししたいと思います。

情報発信、情報共有のところで、やはり自分たちが何をやっているのか、何を目的にやっているのかということを伝えていかないといけないのお話がありました。私も同感で、PTA活動や学校行事で、例えば運動会や体育祭、文化祭なんかは、かなりの保護者の出席率があります。それは何故かといいますと、自分の子どもの活躍する場面を見たいとか、文化祭などで飾られている絵を見て、子どもが成長した姿を見たいとか、目的が明確なのです。行く目的がはっきりしている、だから行くのです。そして、参加率の悪い事業というのは、実際にやっている人たちは楽しいよという話をするのですけれども、楽しいだけではやはり人は来なくて、集まらないと思うのです。

楽しいと感じられるものは、やらなければいけない必要性がしっかりと分かっている、その取組事業の目的や何のためにするのかということが最初から明確になっています。なので、その目的のために行き、やってみて、その目標を達成できたというところで、本当のおもしろさ、楽しさというのが生まれてくると私は思います。そして、情報共有といってもいろいろありますけれども、目的の共有が一番大事なのではないかと私は考えています。

また、PTA活動というところで、実は新潟市PTA連合会の皆さんと教育委員会との交流が深まるなかで、働き方改革のもと各学校のPTA活動が少し変わり出していることが分かりました。そういうなかで今日の発表にもあったように、いろんな改革が行われています。たまたま前回、江南区の教育ミーティングに行った時に、丸山小学校の例が出ていて、B班でも同じような話があったと思いますが、今までの活動を見直す、それから仕事の分担を見直すというところで、今まではどうしても役員の方への負担が大きかったけれども、1年間のPTA行事をちゃんと年間スケジュールとして出して、1年間のなかで、どこか1回はお手伝いに参加してもらおうような形に変えたということでした。これはとても単純ですが、すごくいいやり方だと思いました。今日はPTAの方があまりいないので、この方法が各学校に伝わればいいと思うのですけれども、そんなやり方も含めて、PTAも変わり出しているということをお伝えしたいと思います。

私はPTA活動の変革というなかで少し気になったところは、学校やPTAなどの活動の印刷物を、人を雇って印刷するというのは、それは一つの

方法であり、選択肢でもあるのですが、それで本当にいいのかなと思っています。PTAの方が役割分担で印刷する方法もありだと思うし、逆に何かしらのイベントを行うことがPTA活動ではないので、子どもたちがその学校において健やかに成長するために、先生と保護者が協力し合っているようなことをすることが目的なわけですから、先生方の印刷物をPTA活動のなかで保護者に少し時間をつくって行うこともありなのではと思っています。

これは個人的な意見ですが、いろいろな活動が見直されてきているなかで、保護者からも率直な意見を聞く場が必要と思っています。なので、A班で、この場に保護者の方々を呼んで、直接意見交換ができれば良かったとの意見がありましたが、私も本当にそのとおりでと思いました。事前説明のときにも伝えましたが、保護者の立場の方がほとんどいない場で、この題材について話し合うことはいかなるものかと思ひますし、教育委員会の段取り不足だと思っています。区の教育ミーティングの参加メンバーは、自治協委員の皆様という形になっていますが、それだけに捉われる必要はないと思っています。来年度以降は、ベースとして自治協委員となるのかも知れませんが、やはり話す内容によっては自治協委員ではないメンバーを加えるなど柔軟にやっていくべきかと思っています。教育委員会としても改善しながら、皆様と一緒に、子どもたちのために、いろいろなところで協力をさせてもらいたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

議 事 5 西区自治協議会 第2部会長あいさつ

司 会 では、閉会のあいさつといたしまして、西区自治協議会第2部会の寺瀬部会長様、お願いします。

寺瀬部会長 第2部会長の寺瀬と申します。今日はありがとうございました。

前段では、学校の様子、子どもたちの様子が皆さんに報告されました。私たち自治協の委員としては、なるほどなあと思うことがいっぱいあったかと思ひます。既に地域の皆さんと活発に交流しているよ、連携をとっているよというお話もあったかと思ひます。

そして、後段では、3つの班に分かれて意見交換がなされました。それぞれ出身母体が違うために、子どもを取り巻く環境が違ったり、三者連携といっても自分たちはできているよというところもあったりして、ものの見方や接し方が若干違っている人たちが集まっていると思っています。違っているからこそ、そこで話し合いをすることによって、自分が気づいていなかった、ああそうだねというようなところが幾つか見えてきたところが私のなかにもありましたし、皆さんのなかにもきつとあったかと思ひます。自分が立っている立ち位置が基本になっているということは、その人その人によって見方が

違ってくるのだな、感じ方も違ってくるのだな、接点も違ってくるのだなというところが分かったかなと思っています。そして、教育委員の方々からのご感想のなかにも、私たち地域で活動している者にとって、これから先考えなければならないことが見えてきたかなと思っています。

話のなかで、対話的な深い学び、学びに向かっていく力という言葉も出て参りました。本当に私はなるほどと思うことがいっぱいでした。そして、さらに地域の未来というお話もございました。私たちはこれから先、きっと若い世代の方たちを巻き込むということは簡単なことではないのだと思います。ですが、その若い世代の今の皆さんが、もしかして同期会、同窓会、同級会をやったときに、学校のときはこんな楽しいことあったよねというなかで、登下校のときに、おじさんやおばさんがあそこに立っていてくれたよね、また、お父さんやお母さんと出掛けたこともいっぱいあって、餅つき大会や祭りなど地域の活動にも行ったなかで、家族だけではなく、大勢の地域の人たちが支えてくれていたよねなどと、大きな話題の一つになって、地域を思い出してくれる子どもたちや保護者がいる時代がくるのではないかと思います。私たちの世代が今集まっても、私たちのときにはそういうことがなかったので、学校のときの失敗談や笑い話で花が咲きますけれども、そこに一つプラスされるのだらうな、そんな時代が来るのだらうなと思っています。そう思ったら、担い手不足という点はもちろん否めませんが、地域活動をすることもそう悪くはないなと思いました。

また、楽しいことだけでは人は集まらないということを、少し考えていかなければならないな、大きな課題をいただいたなと思っています。私自身は自分たちが楽しかったら、次の世代に繋がっていくだろうと思っているところがありました。私たちが高齢になって、子どもたちと接点があると、ちょっとニッコリしたり、楽しかったりしますよね。そのように子どもたちから元気もらえるところで甘んじてはいけないのだな、いろんなときにいろんな考え方があって、そして、いろんな立場から集まっている人たちと、こうして一つのテーマで意見交換することは大事なのだなということも考えさせられました。いろんなことを考えて、ただ感想を述べさせていただくことで、閉会のあいさつにさせていただきます。本日はありがとうございました。

司 会 ありがとうございます。以上をもちまして西区教育ミーティングを閉会します。皆さま、長時間にわたり、ありがとうございました。今後ともよろしく申し上げます。

議 事 6 閉会

令和元年度 第2回 西区教育ミーティング 次 第

日時：令和2年1月28日（火）

午後1時15分～（概ね90分）

会場：西区役所健康センター棟3階 大会議室

1 開 会

2 教育委員あいさつ

3 事業説明

- ・全国学力・学習状況調査の結果について 【学校支援課】
- ・保護者，地域，学校の連携のあり方について【教育支援センター】
- ・学校現場での三者連携の具体的な取組について
【東青山小学校，赤塚中学校】

4 意見交換（グループディスカッション）

テーマ「保護者，地域，学校の連携のあり方」

～保護者の関わりをより深めた三者連携の仕組み～

5 西区自治協議会 第2部会長あいさつ

6 閉 会

令和元年度 第2回 西区教育ミーティング出席者一覧

(自治協議会関係)

※順不同, 敬称略

No	氏名	所属・役職	班
1	寺瀬 千恵	西内野コミュニティ協議会 副会長	A
2	五十嵐 加代子	子育て応援サポートセンター うん・まんま 代表	B
3	郷 扶二子	地域教育コーディネーター	C
4	藤丸 圭子	西区民生委員児童委員会連絡会 幹事	A
5	澤邊 潤	新潟大学 創生学部 准教授	B
6	神田 喜美子	西区PTA連合会 会員	C
7	田中 米三	青山小学校区コミュニティ協議会 総務部長	A
8	櫻井 圭子	公募委員	B
9	下川 照雄	坂井輪小・小新中学校区まちづくり協議会 会長	C
10	橋本 浩一	坂井輪中学校区まちづくり協議会 副会長	A
11	岩脇 正之	小針小学校区コミュニティ協議会 会長	B
12	大谷 一男	黒崎南ふれあい協議会 会長	C
13	木村 優子	西区社会福祉協議会 副会長	A
14	加野 麻理子	西区支え合いのしくみづくり推進員	B
15	高橋 伸絵	新潟市防災土の会 西区支部 幹事	C
16	櫻井 洋子	公募委員	A
17	渡辺 美弥子	立仏校区ふれあい協議会 副会長	C
18	原澤 秀明	新潟市異業種交流研究会 副会長	A

(教育委員会関係)

※順不同，敬称略

No	氏名	所属	役職等	班
1	佐藤 久栄	教育委員会	教育委員	—
2	渡邊 純子	教育委員会	教育委員	—
3	白井 明美	新潟市立赤塚中学校	校長	—
4	内木 正宏	新潟市立東青山小学校	校長	—
5	佐藤 夏樹	教育委員会 教育総務課	課長補佐	A
6	山口 学	教育委員会 教育総務課	主査	B
7	阿部 由紀江	教育委員会 地域教育推進課	課長補佐	C
8	佐久間 栄基	教育委員会 学校支援課	副参事	A
9	岸本 真記	教育委員会 坂井輪地区公民館	館長	B
10	伊藤 幸子	教育委員会 坂井輪図書館	館長	C
11	植野 美雪 ★	教育委員会 西区教育支援センター	所長	A
12	小林 正人 ★	教育委員会 西区教育支援センター	主任	B
13	森 龍憲 ★	教育委員会 西区教育支援センター	指導主事	C

★：各班の進行・発表役、—：班指定なし

(西区役所関係)

※順不同，敬称略

No	氏名	所属	役職等	班
1	笠原 明夢	西区役所	区長	—
2	真田 裕子	西区役所	副区長（総務課長兼務）	—
3	堀 峰一	西区役所 地域課	参事	—
4	伊藤 早苗	西区役所 地域課	課長補佐	—

令和元年度

資料3

第2回 西区教育ミーティング

保護者，地域，学校の連携のあり方
～保護者の関わりをより深めた三者連携の仕組み～



令和2年1月28日



保護者主体で活動している組織

- ・ P T A
- ・ おやじの会など





PTA(Parent Teacher Association)

<p>設置目的</p>	<p>保護者と教職員が連携し、学校と家庭、地域をつないで、児童・生徒の健全育成や学校教育・家庭教育の振興充実を図る</p>
<p>構 成 員</p>	<p>保護者、教員</p>
<p>活動頻度</p>	<p>必要に応じて活動を企画・実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総会：年1回開催 ・委員会(教養・文化・校外・学年・広報等)：年数回開催
<p>根 拠</p>	<p>任意加入の団体であり、総会等を通じて会則や活動内容を定めている</p>



おやじの会	
設置目的	<p>保護者(父親)同士の交流と地域活動</p> <p>※学校単位もあれば地域単位もある</p>
構成員	<p>保護者(父親)</p> <p>※OBや母親が構成員の場合もあり</p>
活動頻度	<p>必要に応じて活動を企画・実施</p>
根拠	<p>任意の組織であり、会員同士の話し合いにより会則等を定めている</p>



地域主体で活動している**組織**

- ・ 地域コミュニティ協議会
- ・ 自治会・町内会
- ・ 青少年育成協議会
- ・ 校区交通安全推進協議会
- ・ 民生委員・児童委員

など





地域コミュニティ協議会

<p>設置目的</p>	<p>地域のまちづくりや課題解決に取り組み、地域の活性化を図る (小学校区または中学校区単位で設置)</p>
<p>構成員</p>	<p>自治会・町内会、地域の様々な団体</p>
<p>活動頻度</p>	<p>必要に応じて活動を企画・実施 ・総会：年1回開催 ・部会等(防犯防災・文化教育・広報等)：年数回開催</p>
<p>根拠</p>	<p>任意の組織であり、総会等を通じて会則や活動内容を定めている</p>



<h2>青少年育成協議会</h2>	
設置目的	青少年の健全育成を推進するために 関係団体が連携し、青少年育成のための 地区の活動を促進する
構 成 員	学校・P T A・地域団体の各代表 (地域コミュニティ協議会、自治会・町内会、 民生委員・児童委員、保護司等)
活 動 頻 度	必要に応じて活動を企画・実施 ・総会：年1回開催
根 拠	任意の団体であり、総会等を通じて 会則や活動内容を定めている



学校主体で開催する**三者連携の場**

- 学校評議員会
- 中学校区いじめ防止連絡協議会
- 子どもふれあいスクール運営委員会
- 地域と学校パートナーシップ推進会議
- 学校保健委員会

など





学校評議員会

<p>開催目的</p>	<p>学校が保護者や地域住民等の信頼に応え、地域に開かれた特色ある学校づくりを推進していくため、広く意見を求めるもの</p>
<p>構 成 員</p>	<p>当該学校の職員以外の者で 学校教育に関する理解及び識見を有する者 (校長の推薦により教育委員会が委嘱)</p>
<p>開催頻度</p>	<p>必要に応じて適宜開催 (年2回開催する学校が多い)</p>
<p>根 拠</p>	<p>学校教育法施行規則 新潟市立学校学校評議員設置要綱</p>



中学校区いじめ防止連絡協議会

<p>開催目的</p>	<p>中学校区の学校、保護者、地域の代表等が連携して、中学校区全体のいじめ防止等への取組について協議することを通して、地域全体で児童生徒をいじめから守る取組の充実を図る</p>
<p>構 成 員</p>	<p>地域コミュニティー協議会、青少年育成協議会、民生委員・児童委員、PTA、SC、教職員などの代表</p>
<p>開催頻度</p>	<p>年複数回 開催</p>
<p>根 拠</p>	<p>いじめ防止対策推進法 新潟市いじめ防止等のための基本的な方針</p>



ふれあいスクール運営委員会

開催目的	子どもふれあいスクールの方針・活動内容の検討や評価などを行う
構 成 員	P T A・学校・運営スタッフ・地域団体の各代表、地域教育推進課担当職員
開催頻度	必要に応じて適宜開催 (年1～2回程度)
根 拠	新潟市子どもふれあいスクール事業 実施要綱



保護者、地域、学校に共通する諸課題

- 目的が類似する会議の存在（**会議の重複**）
- 会議が違っても出席者は同じ（**人材の不足**）
- 地域の人材は概ね高齢者（**人材の高齢化**）
- 会議運営の負担（**膨大な資料づくり等**）
- 会議が情報共有で終始し、具体的な改善にはなかなか繋がらない（**実効性の担保**）
- 参加者から所属組織への会議連絡が十分に伝達されていない（**情報伝達の不足**）



「地域とともにある学校」に向けて

- 保護者の役割とは？
三者連携の中での保護者の関わり方は？
- 保護者の関わりをより深めていくために
必要となる配慮や工夫とは？
- **地域総がかり**で未来を担う
子どもたちを支える
三者連携の仕組みの
あり方とは？



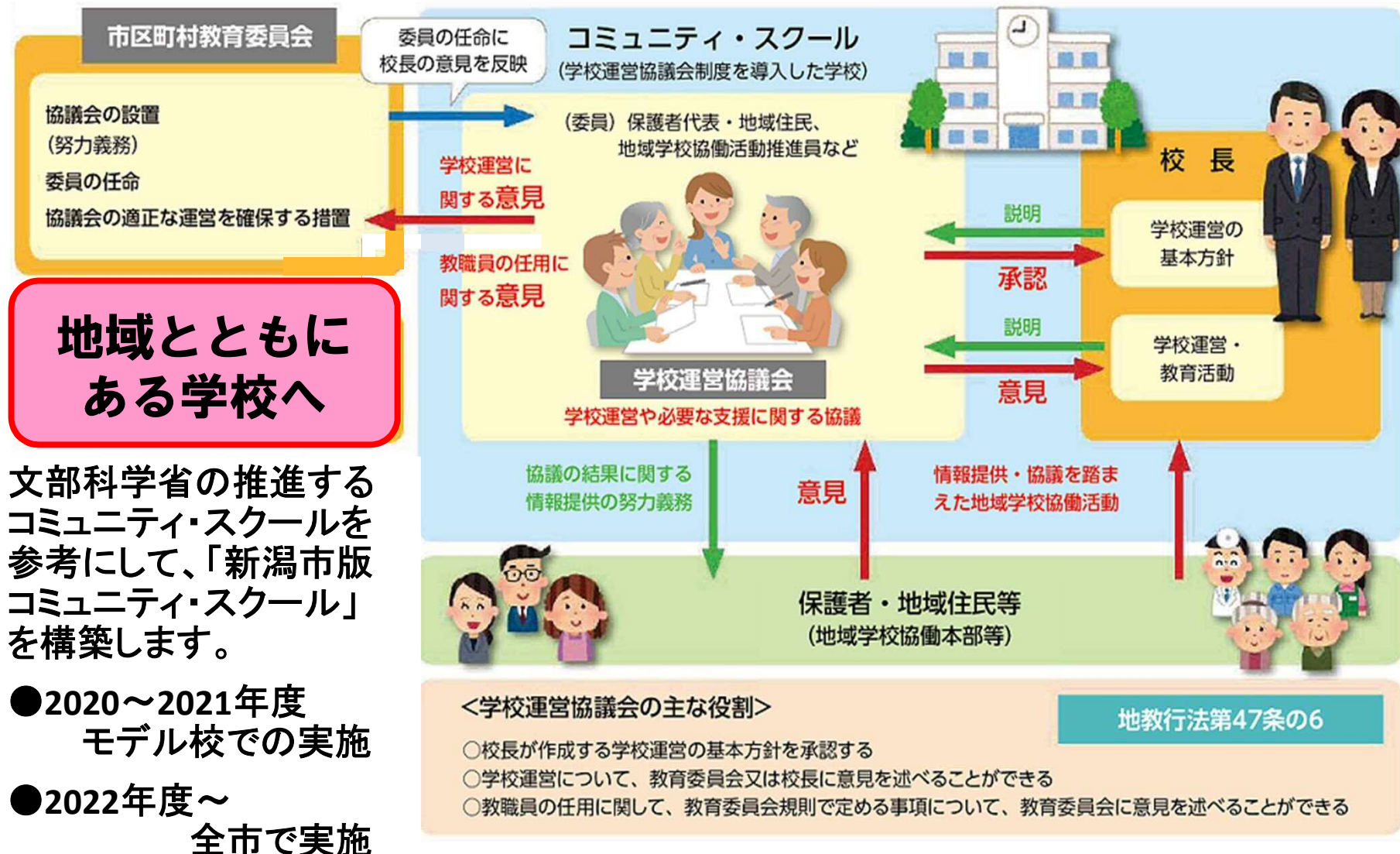
【参考】コミュニティ・スクール概要

学校運営協議会制度

花開く活力、
広がる笑顔、
政令市新潟



(文部科学省イメージ)





保護者、地域、学校の連携のあり方

～保護者の関わりをより深めた三者連携の仕組みづくりへ～

新潟市立東青山小学校
校長 内木正宏

1 はじめに

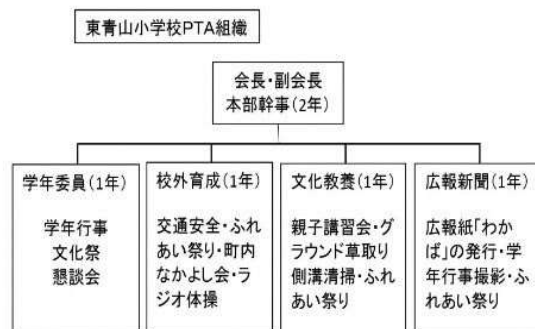
東青山小学校は、今年創立40周年を迎えました。10年ほど前、マスコットキャラクター「ひまわり仮面」と「ラブリー仮面」が誕生し、PTAと地域が一体となった活動が評価され、文部科学大臣表彰をいただきました。PTAは、「自分たちの手で子どもの成長を支える」を合い言葉に、各種会議やイベント活動に精力的に取り組んできました。会員は、保護者同士和気あいあいとそして新しいものに挑戦しつつ、PTA活動に取り組んでいます。

2 活動の実際

(1) 諸会議

役員は、自分たちで議題の精選や会議の進行をし、資料の作成から印刷、配付までを受け持ちます。学年部会や各専門部会は、PTAの役員や会員が全て進めます。

教職員は、報告・決定事項がある理事会・評議員会等に出席し、役員と共にPTA活動を支えます。



(組織図)

(2) 学年・専門部の活動

仕事に就いている会員も多く、各学年や専門部の活動の連絡はメールやラインを駆使しながら進めています。外部講師との交渉や活動に必要な器具なども自分たちで手配します。毎年好評を博し20年以上も続いている活動もあります。休日に行う活動は、担当する教職員も参加し安全管理に気を配ります。

文化祭では2つの学年がペアを組み、子どもたちが楽しめる企画、あっと驚く体験を工夫して実施しています。



(文化祭スライム作り)

3 地域一体となった活動



(祭りの様子)

毎年9月第3土曜日に「東青山ふれあい祭り」を開催し、今年で13回目となります。祭りの実行委員会の中心となる部分でPTAも活躍しています。参加団体は、東青山小コミ協、社会教育施設・団体、民間企業、学生ボランティア等、多岐に及び、今年度は21の団体の協賛をいただくことができました。4年生は、総合学習で学んだ地域に根ざした「六階節」を演奏と歌と踊りで披露しました。この六階節の指導も地域の方々です。本年のお祭り参加者は、約2800人を数えました。

また、おやじの会などPTA会員OB・OGの方々とも積極的に交流し、よき伝統を熱い情熱で引き継いでいます。休日に会議を行う場合は、青山イオンにある東青山小学校区コミュニティ協議会が運営する「コミュニティ広場」を無料でお借りすることもあります。

4 これからのPTAの組織と活動

近年、家庭数の減少に伴い、組織や活動の見直しを進めていく必要が出てきました。できるだけコンパクトにして会員の負担を軽減しながら、一方で子どもたちの喜ぶ笑顔とやり甲斐を増やすためにどうすればよいのか。PTA会員一人一人の知恵と協力で、解決していきたいと考えています。

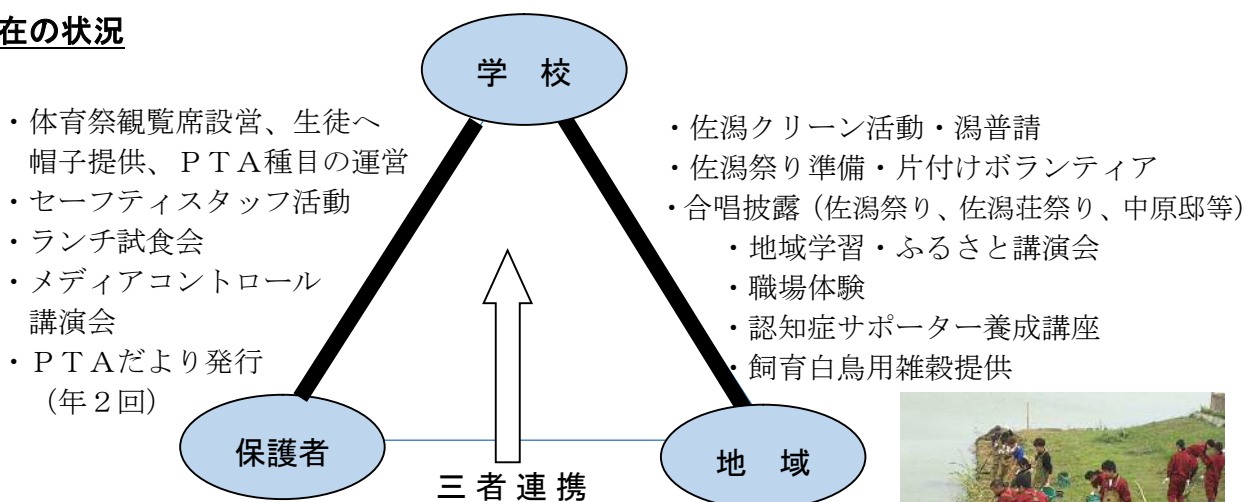


(運動会前草取り)

保護者、地域、学校の連携のあり方 ～保護者の関わりをより深めた三者連携の仕組みづくりへ～

赤塚中学校 校長 白井 明美

1 現在の状況



- (1) 体育祭観覧席テントを商工会から借用 (10張) 地域・保護者用の観覧席設営、撤去
- (2) 佐潟祭り後片付けボランティア (生徒とともに)
- (3) 消防団活動の一環として生徒に対しAED講習会を実施 (団長は保護者)

2 三者連携活動の実際

(1) 体育祭観覧席テントを商工会から借用、設営、撤去

PTAの仕事として定着しています。商工会からテント10張を借用し、体育祭当日の朝7時に集合して観覧席を設営していただいています。また、PTA伝統種目の「人借りレース」では、保護者・地域・生徒が手をつないでゴールする姿が見られます。



(2) 佐潟万燈祭り後片付けボランティア

佐潟万燈祭りは、地域手作りの祭りです。商工会や祭り実行委員会が夜店、花火、ステージ発表などを企画し、関係団体に寄付の呼びかけを行って実施しています。

中学生は、ア「前日の灯籠づくり」、イ「当日の灯籠設置やステージのセッティング」、ウ「翌朝の灯籠撤去やゴミ拾い」の3種類のボランティアを行っています。今年から中学生ボランティアを事前申込制にしたため、保護者の理解が一層進み、20名ほどの保護者がボランティアに参加してくださいました。



(3) 消防団活動の一環として生徒に対し救命救急講習会

昨年まで消防署に依頼していましたが、今年は団長が保護者ということもあり、地域の消防団に依頼しました。当日は、保護者、地域の方を合わせて11名が来られ、中学2年生の保健体育の時間で、救命救急の講習を行っていただきました。



3 今後の構想 ～現在の活動を生かし、三者連携をより活発にするために～

(1) 「学校—地域」の連携に保護者を組み込む

①環境保全活動

佐潟クリーン活動や潟普請については、これまで保護者への積極的な啓発活動や参加要請は行ってきませんでした。しかし、地域の環境保全は、すべての世代が関心をもって取り組むべき課題と考えるため、来年度、PTA専門部会の活動に読み替えるなどして、無理なく参加できる仕組みが作れないか、PTA役員の皆様と相談していきたくと思っています。

②佐潟祭りへの積極参加

地域が主体となって開催している佐潟祭りの実行委員に、校長だけでなくPTA代表も名を連ねることで、より一層一体感が増し、楽しいものになるのではないかと考えています。PTA役員の皆様のお考えをお聞きしながら、よりよい方途を探っていきます。

③「認知症サポーター養成講座」「救命救急講習」「地域学習」

授業の一環として行っているこれらの学習に、保護者にも積極的に参加していただくことで、三者連携が進むと考えます。

「認知症サポーター養成講座」と「救命救急講習」は、それぞれ2年生の家庭科と保健体育で実施しましたが、これらをPTA行事等で行うことで、保護者にとっても地域福祉の仕組みや救命救急の技能も一緒に理解・取得できます。

また、1年の総合学習で行っている「地域学習」では、自然・文化・産業などさまざまな角度から地域を調べています。その発表会に、地域の方々や保護者をお呼びし、生徒とともに地域の未来を考えると一体感が生まれると考えています。

(2) 防災訓練の実施

赤塚地区は災害の少ない地域だということで、みずき野地区以外は地域自主防災訓練を行っていないとのことです。今後、学校が主体となって、地域や保護者を巻き込み、防災訓練を計画していきたいです。

(3) 新潟国際情報大学との連携

校区内にある新潟国際情報大学は地域活動に大変熱心です。特に社会学の小宮山准教授は、地域のさまざまな役職を引き受けており、「環境保全や子どもの健全育成について、個々の団体がばらばらに活動している状況なので、コンソーシアムを作りたい」とおっしゃっています。大学を拠点としたコンソーシアムは、これからの地域の在り方として大変興味深いので、今後も連携を深めていきます。

資料6 グループディスカッションの進め方について

【話し合いの内容】

第1回西区教育ミーティングでは、保護者、地域、学校が連携して地域全体で子どもたちを育てていくための現状や課題について意見交換を行い、保護者の関わりが少ないことが課題のひとつとして挙げられました。

第2回西区教育ミーティングでは、三者連携の中で保護者の関わりをより深めていくためにはどうしたらよいかを話し合います。

【話し合いの視点】

- 保護者の役割とは。
- 保護者はその役割を果たすために、三者連携の中で地域や学校とどのように関わっていけばよいでしょうか。
- 保護者の関わりをより深めていくために必要となる配慮や工夫とは。
- 地域総がかりで子どもたちを支える三者連携の仕組みのあり方とは。

【意見交換にあたって】

- どんな意見や提案も否定はせずに、そう感じた背景や意図を理解しましょう。
- 現実と理想との相違の中に課題や懸案があります。また、立場の違う人の意見を聴くことで、改善や解決につながるヒントが見つかりやすくなります。
- 組織や活動の目的や意義を共有し、前例踏襲の考え方にとらわれることなく、柔軟な発想で考えてみましょう。